全国焼肉協会 第4回通常総代会開催

新会長は山口悟氏　名誉会長に新井泰道氏

新会長 山口 悟 氏

名誉会長 新井 泰道 氏

全国焼肉協会(JY)はこのほど、第4回通常総代会を東京都港区のホテルアジュール竹芝で開催し、14年度の事業報告・決算、15年度の事業計画予算を原案通り承認した。

総代会後の理事会による役員選任では、第3代会長に山口悟氏(なべしまホールディングス社長)が新たに選任され、前会長の新井泰道氏(叙々苑社長)は新たに設けられた名誉会長にそれぞれ就任した。

総代会の冒頭、新井会長は「焼肉市場は消費税の影響をあまり受けず、売上げはリーマン・ショック以前に戻りつつあるが、主力食材である牛肉高騰が収益面を圧迫している。そうした状況を打破するため、協会ホームページを改善、機関紙・焼肉新聞を創刊、全国ヤキニクまつりを実施するなど、消費者に向けたアピール策を推進する」としたほか、「業界として憂慮すべきは違法の生食提供で逮捕者が出たこと。生食規制には必ずしも賛同するわけではないが、違法行為は許されない。法令順守を徹底すべき」と指摘した。

懇親会の冒頭、山口新会長は「焼肉市場を発展させるためには協会会員の増強が第一。近く実施する検定制度・焼肉ソムリエなどを通じて新規会員の獲得に努めたい」と抱負を述べた。理事会で選任されたおもな要職は次の通り。

▽副会長=高木勉(梨湖フーズ)、大石重己(ゼンショク)、李起鮮(ライズ)、権一(安東忠商事)、小野敦司(一心亭)、千田耕作(ひがしやまフードサービス)、金信彦(トラジ)、伊藤勝也(牛心)▽名誉相談役=江崎政雄(食道園)▽専務理事=旦有孝

総代会後の懇親会で理事一同が挨拶

フロンから"自然冷媒"の時代に

焼肉の潮流を読む

1974年、エアコンや冷蔵庫などを冷やす"冷媒"として使用されているフロンが、オゾン層を破壊する物質であることが分かり、フロンに代わって登場したのが、いわゆる"代替フロン"。90年代から普及しましたが、代替フロンはオゾン層を破壊しないものの、地球温暖化の要因となることが判明。二酸化炭素と並んで、地球温暖化を加速させる大きな原因となっています。地球環境に大きな打撃を与えるフロンへの対策は、先進国の一大関心事であり、97年に採択された「京都議定書」では、代替フロンを2020年までに全廃することになっています。

そこで、にわかに注目を集めているのが、"自然冷媒"です。これは、アンモニア、水、二酸化炭素、炭化水素、空気など、もともと自然界に存在している物質を使用しているので、より自然環境に適し、環境負荷が少ないのが特徴。当協会が推奨する「炭化水素混合冷媒」もその一つです。

代替フロンからノンフロンへの移行は簡単です。現在、エアコンや冷蔵庫で使用中のフロンをノンフロンと交換するだけで、機器を改造することなく、新たな設備投資も不要。短期、低予算で実現できます。交換により今年からスタートした「フロン排出抑制法」の対象外となり報告・点検・記録等の必要はなくなります。

さらにノンフロンへの交換には、経済的メリットもあります。エアコンの消費電力が約25～35%削減するので、節電で浮いた電気代によって、ノンフロンへの交換コストは2年～2年半で回収可能であり、その後は、節電効果のメリットを継続して享受することができ、店舗経営のコスト削減に大いに役立ちます。

さらに、コンプレッサー圧力が現在の50～70%程度で運転するため、エアコンや冷蔵庫などの機器への負担が軽くなり、機器の寿命が延びるというメリットも見逃せません。

環境省の調査によると、消費者の8割以上が「ノンフロン化を推進している企業を応援したい」という意向を示しています。ノンフロンを使用していることを示すシール(当協会が提供)を店内に貼ることにより、店舗のイメージアップを図ることができ、ひいては集客力アップにもつながるはずです。ノンフロンへの交換は、省エネと省コストを実現し、地球にも店舗経営にも優しいというわけです。

一般社団法人
日本自然冷媒推進協会
理事長
大日方　正人 氏

設備はそのままで省エネを実現　節電効果は25～35%

%減 ― USDA

の食肉需給予測によると、牛肉の生産量
期は 1.8%増と回復に向かうものの、15
牛肉価格高騰と米ドル高が影響して、15
)記録的な価格上昇により、消費は牛肉か

月比0.3万頭減

と、5月末の国内の牛の飼養頭数は前年比
前月比では減少幅は縮小したものの、出荷
では黒毛和種、交雑種がわずかだが増加し

比33%増

推定期末在庫は 12.6 万tに膨らんだ。輸
未通関玉も一部入ったことで前月から
増となった。90年以降の需給表によると、
90t(同 29.1%減) と生産量減少を受け

法、乳去は上昇

等級が下げるものの、より安価な国産牛
昇。5月の全国の成牛出荷が概算で前年
行きは鈍く、一層安価な牛肉へのニーズ
1,118円と、末端の価格とはかい離した

― 4月の外食

月の外食産業市場動向調査によると、後
ドで売上げの低迷が続き、外食全体の売
6.5%増、客単価 4.7%増となり売上高

ン42.7%増 ― 4月牛肉輸入

増の 5.8 万tとなった。チルドは 4.9%増
) 3.8 万tだった。チルド輸入は、豪州が
2%減大きく減少。フローズンは、豪州が
通関で残されていた分が通関され 86.2

上高8.6%増

決算によると、対象企業 10 社(一部 2
増、営業利益 29.6%増、経常利益 27.7
益となった。同期は引き続き輸入食肉、国
相場が上昇し、食肉売上が増加する一方
。

で明暗

消費税増税への対応の仕方で明暗が分
高めて強化したチェーンが好調で、加工食
低迷した。消費増税以降、買い物頻度が
が進んだチェーンが明確に分かれた。

ーク発売 ― イオン

クト とっておきRESERVE五島塩ロース
170g・税込み 1,490 円など)」「同ロ
み 980 円)」を発売した。発売 4 日間で
億円を超える売上げを目指す。

― 厚労省

&Aを各都道府県などの衛生主管部(局)
)生食の禁止にともない、関係事業者など
めのもの。Q&A形式で、基本的な知識や